

## 『鞏義黄冶窯発掘調査報告』の刊行

奈良文化財研究所では、2000年度より中国の河南省文物考古研究院と共同研究を実施しています。河南省には歴代の多数の窯跡が存在しますが、なかでも鞏義市に所在する黄冶窯は、日本でも出土する唐三彩を焼成した窯跡であることが知られ、注目されてきました。奈文研ではその重要性を鑑み、同研究院と長年にわたり共同研究をおこなってきました。

黄冶窯では隋代から唐代にかけて焼成された陶磁器類や生産関連遺物が出土しています。奈良市大安寺より出土した唐三彩の陶枕と類似したものもあり、日本で出土した唐三彩の製作地を考える上で重要な知見を得ることができました。考古学のみならず、陶磁史、工芸史、美術史においても貴重な成果です。鞏義黄冶窯の発掘調査報告書は、2016年に『鞏義黄冶窯』という題目で中国の科学出版社より刊行されましたが、このたび、その日本語版報告書である『鞏義黄冶窯発掘調査報告』を奈文研と河南省文物考古研究院が共同で刊行しました。

報告書は本文編、図版編、付論・付表編の3冊からなり、本文編と図版編では発掘調査の成果、付論・付表編では中国でおこなわれた自然科学分析の成果を紹介しています。後者では、日本の文化財科学で一般的に用いられている分析方法とは異なる手法の分析も実施しており、黄冶窯の発掘調査成果とともに日本の学界に紹介する意義は大きいと考えます。

共同研究機関の河南省文物考古研究院、翻訳・修文・校正においてご助力いただいた研究者や大学院生の方々はじめ、ご協力いただいたみなさまに御礼を申し上げます。

(都城発掘調査部 丹羽 崇史・神野 恵)



『鞏義黄冶窯発掘調査報告』